







泳ぎたいという気持ちを抑え、まず「は線路沿いに歩いて「花崎城山公園」へ行ってみました。戦国時代の花崎城の跡で、堀がいまでも見られます。この城は上杉謙信の小田原攻めの際に落城したそうです。(MAPの⑧)



東武動物公園駅から伊勢崎線の降り電車で4つ目、約15分で「花崎駅」に到着しました。来月、園児たちを「加須はなさき水上公園」に引率するという、友子の視察へのお付き合いです。



現在は今年の5月で「開館10周年を迎えた」ということで、『埼玉ゆかりの芸術家展～近代・現代の埼玉の芸術家10年の活動を振り返って～』を開催中です。常設展では国内外の有名画家たちの作品を堪能できました。(MAPの⑨)



次に訪れたのが「サトエ記念21世紀美術館」。日本庭園には20点余の彫刻作品が並び、庭園を流れる小川には鯉がたくさん泳いでいます。エントランスホールでは、樹齢数百年の秋田杉の柱に圧倒させられます。(MAPの⑩)

## 埼玉ゆかりの芸術家を 応援する美術館

花崎駅南口の近く、住宅街の中にその一画だけ昔からの武蔵野の森をそのまま残したような花崎城山公園があります。その名が示すように、ここは戦国時代に花崎城という平城があった遺跡。いまも公園の北側の水堀が残っていて、水鳥が遊んでいるのが見られます。そんな歴史に思いを馳せながら、梢を渡る風にしぼし涼んでいきました。

次に向かったのは、「サトエ記念21世紀美術館」。「日本庭園と彫刻と絵画の美術館」をキャッチフレーズに、北埼玉地域初の本格的美術館として平成13年に誕生しました。

庭園には20余点の彫刻が配され、散策しながら自然光の中で鑑賞できます。同館には国内外の近・現代美術品が約1000点所蔵されていますが、毎年、埼玉県にゆかりのある芸術家たちを紹介することに力を入れているのが特徴。開館10周年となった今年はその集大成として「埼玉ゆかりの芸術家展～近代・現代の埼玉の芸術家10年の活動を振り返って～」を開催しています。

さて、芸術の次は「食」。加須は「朝まんじゅうに昼うどん」といわれるくらい昔から小麦食文化が盛んな町で、とりわけうどんの歴史は300年以上も前までさかのぼることが分かっています。花崎駅周辺にも加須手打うどん会の加盟店が数軒あります。店ごとに違う手打ちの技や秘伝の味を食べ比べるのが醍醐味。最近では市民のアイデアから生まれた「肉味噌うどん」が埼玉B級で当地グルメ王決定戦で優勝。加須うどんの人気メニューになっています。





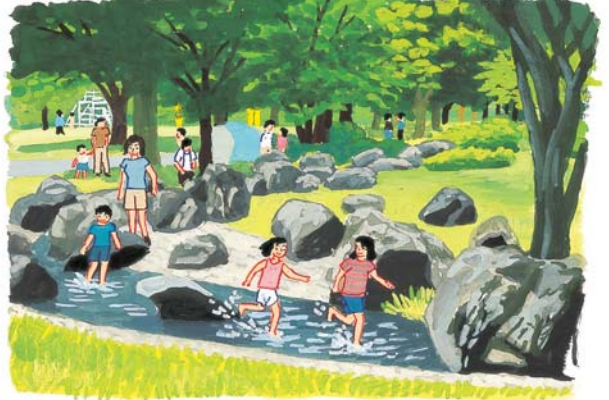
いよいよ「加須はなさき水上公園」にやってきました。入園するのは無料で、アトラクションごとに有料となっています。「おもしろ自転車」は種類が豊富。どうやって進むのか乗ってみたいとわからないような自転車も。(MAPの(A))



プールもいっぱい楽しみました。これは「さすがなみプール」。海辺のリゾートにいるような気分を味わえますよ。向こうの白い崖には「海賊の洞窟」なんていうのもありました。「スライダープール」も楽しかったなあ！(MAPの(A))



ランチは「前乃家」さんで「肉味噌うどん」を。汁がなく、肉味噌を全体に混ぜ混ぜして食べます。「第7回埼玉B級ご当地グルメ王決定戦」で見事グルメ王に輝いた一品。加須市内13店で食べられるそうです。(MAPの(D))



「水上公園」内を流れるせせらぎは、水の中を走り回る子どもたちの歓声に包まれていました。この小川は、「バーベキュー広場」とアスレチックも楽しめる遊具がそろった「ふるさと森」の間を流れています。(MAPの(A))

ちなみにシーズンオフには、ルアー釣りができる大きな釣り堀が出現。ボート遊びやおもしろ自転車、パターゴルフなど、一年中遊べます。

同公園の近くには小川が流れています。これは昔から加須から久喜にかけて一帯の農業を用水路として支えてきた青毛堀川。犬地の命を育む水脈で江戸時代には舟運にも利用されていたそうです。

花崎駅の北口側には、大型のマンション群がさながらひとつの街を形成しています。駅のすぐ近くには花崎北公園。広々とした緑地スペースが気持ちよく、近隣の人たちの憩いの場として親しまれています。また、この公園は市内有数のサクラの名所で、満開時は花見を楽しむ市民で賑わいます。

というわけで、花崎駅前郵便局で使われる風景印には、加須はなさき水上公園のスライダープールと花崎北公園のサクラの絵柄が描かれています。

## 渚で水と戯れよう 加須はなさき水上公園

夏の花崎のメインステージは、加須はなさき水上公園。そう、プールです。といってもタダのプールではありません。泳ぐもよし、遊ぶもよし、寛ぐもよしの近未来形プールなのです。

まずは長さ200mの人工ビーチに気持ちよい波が打ち寄せる「さざなみプール」。ホンモノの渚にいるようです。対して流水プールは川泳ぎの気分。ひと際歓声上がるのは「スライダープール」。最長コースは100m以上あります。そのほかにも本格的な水泳を楽しむ「多目的プール」や温泉気分の「ジェットプール」、それに「幼児プール」まで備えているので、泳げる人も泳げない人も、大人も子どもも思い切り楽しめるのです。





最後に、駅の北口方面も、ちょっと散策してみました。ここは「花崎北公園」。野球場がすっぽり入るくらいの大きな芝生が広がり、その周りをサクラの木が囲んでいます。春は花見客でとても賑わうそうですよ。(MAPの⑤)



花崎駅に戻る途中、「青毛堀川」という小さな流れに出ました。この地の農業を長らく支えてきたそうです。二枚橋の右岸橋詰には、寛政3(1791)年に建立された「石橋供養塔」というものが立っていました。(MAPの⑥)



# マンスリー クロス

図書カードが  
当たる!!

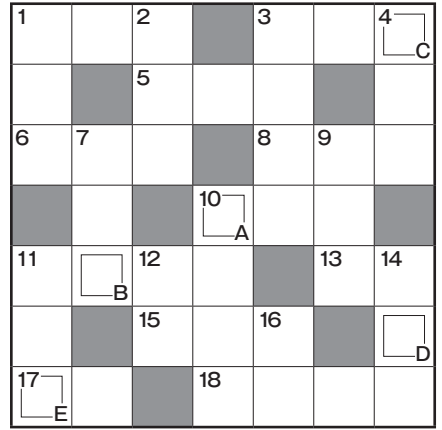
☆6月号の答えは  
『ニューバイ』  
でした。

※ヒントを読んでマス目をうめ、A~Eのことばを  
アルファベット順に並べてください。それが答え。

## 【応募方法】

クロスワードの答えと住所・氏名・年齢・電話番号・入手先を書いて、以下の宛先へ（「ボイス」へのお便りがある方は、併せてどうぞ。その場合は、「ボイス」と書いて投稿してください。ペンネーム希望の方は、そちらもお書きください）。〒131-8522 東武鉄道広報部「マンスリークロス」係（住所不要）正解者の中から抽選で10名様に図書カードをプレゼントします。当選者は賞品の発送をもって代えさせていただきます。締切は7月20日（水）当日消印有効です。

※ご応募いただきました方の個人情報は、「マンスリークロス」当選者への賞品発送および「ボイス」掲載者への粗品進呈以外の目的で使用することはありません。



## ●タテのカギ

- 1 花崎駅が最寄り。○○○記念21世紀美術館
- 2 加須市はこの食べ物で有名
- 3 今年の7月2日は『武器よさらば』『○○○○と海』などで知られる作家、ヘミングウェイの没後50年
- 4 オリンピックをこう呼ぶことも
- 7 魔女の乗り物
- 9 種も仕掛けもございません
- 10 7月14日はフランス○○○○の記念日（パリ祭）
- 11 東武ワールドスクウェアにもある「○○○の長城」
- 12 「一寸先は○○」
- 14 京都・八坂神社の夏祭り。○○○祭
- 16 ○○と陽

## ●ヨコのカギ

- 1 ○○○をよく見てから横断歩道を渡ろう
- 3 「○○○読みの○○○知らず」
- 5 ウナギ屋さんは大忙し。○○○の丑の日
- 6 毎年夏、板橋区立美術館で開催される「イタリア・ボローニャ国際○○○原画展」（P17 参照）
- 8 地球は24時間近くかけて1回転している
- 10 お店の手配や人数調整。飲み会の○○○さん
- 11 化けの皮が剥がれること。「○○○○を現す」
- 13 時化（しけ）の反対
- 15 夜がまだすっかり明けきらないとき
- 17 便利な機械。パソコンや携帯電話も、文明の○○
- 18 これを中国から伝えた僧侶の名が付いた○○○○豆

# 素敵な歌と舟はゆく

## C I N E M A T R A I N

さまざまなシーンに息づく鉄道。「シネマ・トレイン」では鉄道が印象的に登場する映画を紹介します。

映画はまず、SNCF（フランス国鉄）の列車清掃係の登場で始まる。彼は早々に仕事を切り上げるや街に出て、恋人探しに精を出すというお気楽な若者だ。そのナンバりの顛末も可笑しいけど、彼は、このコメディを彩る大勢の中の一人に過ぎない。本当の主人公といえば、近郊のシャトーに住むブルジョワ家族たち。奥様はファッションモデルなドレス姿で、自家用ヘリに乗り奔走する実業家。夜ごと開く豪華なパーティも、したたかにビジネスが目的だ。年頃のお坊チャマは、毎朝近くの小川からモーターボートで有名校に通学する……と見せかけて、実はアルバイト三昧。街の危ないならず者や浮浪者とも付き合い、自由平等を実践している。美人のメイドは、趣味のロッククライミングを活かして窓拭きするし……みんな、どこか常識を逸している。

そんな奇妙な人たちの間でも一番面白いのが、ご主人様だろ。監督である巨匠オタル・イオセリアーニが自ら演じるこのご老体は、常に酩酊状態で、まったく屋敷から出ず、

ワイン片手に大好きな鉄道模型に興じて過ごす。その立派な鉄道模型が走り回る部屋に、ある日、迷い込んできた酒好きの浮浪者を招き入れ、ともに高らかに人生を歌い乾杯するシーンが抜群、全編のクライマックスになった。意気投合したご両人は、やがてこの俗世界を捨てて、タイトル通りのんきで幸せな舟旅に出ることになるのだ。

制作年度こそちよつと古いけど、DVDで観ても上質なユーモアは新鮮。大人の夏休みのビタミンとして、今も有効です。



（99年 仏・伊・スイス）